

題目：二者間の協力状況でシグナルとして機能する要因に関する探索的検討

氏名：新谷 拓海

指導教官：高橋 伸幸

人々は、様々な他者と、様々な社会的交換関係を結ぶ。そして、人々は他者の社会的交換関係における過去の行動から、何らかの印象を抱くことで、別の社会的交換関係において、その人に対する行動を変える傾向がある。このことは、社会的交換関係での行動が何らかの印象を伝えるシグナルとして機能していることを意味する。先行研究では、社会的ジレンマ状況における協力行動が自分は協力的であるという印象を周囲に与え、別の社会的交換関係における他者の行動選択に影響することが示されていた(Milinski, et al.2002; 品田, 2005)。それだけではなく、人々は些細な状況の違いを考慮しておらず、特定の社会的交換関係における他者の行動から協力的であるという印象を受けると、別の社会的交換関係において、その人に対して協力行動をとるということが明らかになった(稲葉, 2016)。そこで本研究では、一見、別の社会的交換関係に影響を与えなさそうな他者の行動でさえ、その後の二者間の社会的交換関係での自分の行動選択に影響を与えるのか、即ち、何らかの印象を伝えるシグナルとして機能するのかどうかを検討した。

本調査では、社会的交換関係に全く関係ない行動として、マナーの良い(悪い)、社会的規範からの逸脱、遠慮がない、運が良い、親切(不親切)、配慮(非配慮)、自由状況下での逸脱、名誉の文化(自分の名誉を守るため、侮辱に対して過剰に反応する文化)という8つの状況下での行動を検討した。

調査の結果、マナーの良い行動、親切な行動、配慮ある行動をとった人は、後の二者間の協力状況で協力される傾向が高かった、即ち、それらの行動はポジティブな印象を伝えるシグナルとして機能したと言える。これに対し、マナーの悪い行動、遠慮がない行動、侮辱に対する過剰な反応をとった人は、後の二者間の協力状況で協力される傾向が低かった、即ち、それらの行動はネガティブな印象を伝えるシグナルとして機能したと言える。これらの結果から、社会的交換関係とは本来関係ないはずの他者の行動も、別の社会的交換関係において、その人に対する行動選択に影響を与えることが明らかになった。また、社会的規範からの逸脱行動、運がよいこと、自由状況下での逸脱行動、不親切な行動、配慮のない行動、はシグナルとして機能しなかった。この結果から、社会的交換関係とは、関係のなさそうな行動の全てがシグナルとして機能する訳ではないことが明らかになった。